●同志社大学の地域ボランティア活動組織 ARCO 都築くんの来所

26 日（月）に同志社大学の都築くんが事務所に来所されました。山村さんが作った 50 枚のスライド（パワーポイント）を用いて太田さんが京田辺と木津川についての説明をしました。この話を竹蛇籠や中聖牛につなげて、興味を持った学生を集めてボランティア活動に発展させようという企画です。興味を持った学生には、11 月 7 日に玉水橋の竹蛇籠製作現場で竹蛇籠の製作を手伝ってもらうという企画です。それで 11 月 7 日は午後 1 時から 1 時間ほど数名の学生に竹蛇籠製作の手伝いをしてもらうことになります。その後は、中聖牛の設置現場などの見学も計画されています。8 日の中聖牛製作に向けて忙しい日ですが、学生の竹蛇籠製作体験の指導に時間を割きたいと思います。

●竹蛇籠 27 本分の編み上げが完成。組み立てていた中聖牛は一度解体しました

中聖牛３基分に必要な竹蛇籠 27 本分、1/2 分割で 54 本が 10 月 25 日（日）に編み上げられ、それぞれ 2 本を合体した４m　の竹蛇籠は 9 本が完成しました。合体作業はあと 18 本分が必要ですので、31 日（土）以降に作業予定です。

日曜日の午後は、組み上げてあった中聖牛を修正しようと作業を始めましたが、結局最初から組み立て直すことになり、中聖牛を一度解体して倒しました。(有田、森島、大釜、太田の 4 人で作業)

11 月 8 日には竹門先生の呼びかけで 10 人ほどの手伝いが来ることになっており、中聖牛３基をできるだけ作り上げる予定です。そのためには 7 日までに、そのための準備を終えておく必要があります。

●竹蛇籠、中聖牛製作の今後の予定

10 月 31 日（土）、11 月 1 日（日）4m の竹蛇籠の残り 18 本を合体して完成させる。中聖牛を組み立てる。
11 月 2 日（月）中聖牛の組み立ての続き
11 月 7 日（土）中聖牛の組み立て　他に 13:00～14:00 同志社生に竹蛇籠を手伝わせて編む
（8m 籠に向けて）　4:00～15:00 同志社生、中聖牛等を見学
11 月 8 日（日）竹門先生が応援を連れてくるので、中聖牛の組み立て（棚作りを中心に）。NHK 取材あり。
12 月 5 日（土）完成した中聖牛を設置場所に業者がユンボで運搬。その後に竹蛇籠を載せて石入れ。
12 月 6 日（日）引き続き中聖牛作業。石入れ等。　（この日だけ原小組が来る）
11 月は、12 月の中聖牛設置に向けて、中聖牛を組み立て上げるとともに、
８m の竹蛇籠 9 本 をできる限り製作する。
里山農園猪柵総点検補修

●炭焼き窯草刈り

秋晴れの素晴らしい 10 月 27 日（火）薪炭組合からお借りしている炭焼き釜の周辺を草刈りしました。入口の柵に、クズ、セイタカアワダチソウその他の雑草が絡みついていました。周辺をきれいに管理していると、地元の人にアピール出来たかなと思います。里山農園のメンバー　大村、森島、吉村、播川　4 人で午前中の作業でした。

●里山農園イノシシ柵、総点検補修

これまで約 15 年間、普賢寺地区では獣による被害は見られませんでしたが、イノシシが田んぼに侵入して、稲がなぎ倒されたり、野菜が食い荒らされて野菜の栽培が困難になる事態が発生するようになりました。里山農園でも今年はサツマイモがイノシシの被害で全滅となりました。その後もイノシシが柵を押し倒して農園に侵入し、地面を掘り起こした跡や足跡があちこちに見られ、アズキがなぎ倒されたりしています。

●京都新聞にイタセンパラ冊子制作の記事掲載

10 月 27 日の京都新聞、山城版に記事が掲載され、その後に城陽の方、お二人から問い合わせがありました。

2020/10/27

2007年まで生息 国の天然記念物

木津川に再びイタセンパラを

雄のイタセンパラ
（やましろ里山の会提供）

京田辺のNPO 生態伝える冊子

木津川から姿を消したとされる淡水魚で「国の天然記念物」「イタセンパラ」の復活を目指し、京田辺市のNPO法人「やましろ里山の会」が、イタセンパラの生態や川の環境づくりなどを紹介する冊子を作った。

イタセンパラは体長7～8㌢のコイ科の淡水魚で、繁殖期には雄の体が赤く染まるのが特徴。淀川水系では、木津川で最後まで生息していたとみられるが、2007年を最後に確認されていない。

同会ではこれまでも河川の環境整備に力を入れ、今年からイタセンパラの復活プロジェクトを開始した。

冊子（A5判、12㌻）は活動の第1弾として製作。表紙にはイタセンパラの写真をあしらい、木津川から姿を消すまでの経緯や保全活動の様子を載せた。

今後は木津川中流域で、中央図書館や近鉄新田辺駅の掲示板などに置くほか、希望者には郵送する。問い合わせは同会☎0774(26)4183。（有賀光太）

プロジェクトの代表を務める同志社大非常勤講師の光田重幸さん（69）＝保全生態学＝は「地域の人に、保全活動への関心を持ってもらえれば」と話した。冊子は約1千部作り、同市立

冊子を持つ里山の会のメンバー（京田辺市役所）

リハビリ中の山村さんよりニュース原稿が届きました

●念願の蛇篭中聖牛分（4m）27 本出来上がる

昨年までは蛇篭の製作でベテランがおられて何とか作り上げてきました。しかし今年はそういった形ならず昨年無理を言って製作に加わっていただいた皆さんが思案し苦労をかさねてつくりあげたもので、まさに手作りの里山の会にの血と汗がにじんだ作品になりました。頑張っていただいた皆さんに心から感謝します。これで中聖牛は材料や資料が整ったので完成させる目途が立ちました。

●炭焼き釜周囲の雑草　片づける

竹蛇籠製作も大仕事を進めながら、炭焼き釜の整備に奮闘いただきました。本当にごくろうさまです。窯開きがたいへんたのしみです。きっといい炭が生産できているでしょう。今年の冬にはぜひとも昨年築いた技術を活かして焼きたいものですね。

●イタセンパラの記者会見　京都新聞報道いただく

今年の取組の中でもっと影響を受けたのがイタセンパラでした。コロナウイルス感染防止のために全く行動を提起できませんでした。立命館宇治高校等への働きかけのためには説明文などがないので手が出しにくいとの意見が出されていました。必要性はわかっていても具体的に進められませんでした。小川力也先生や福井波恵さんなどのご意見や修正の手助けを得てようやくのことで、パンフが出来上がりました。かねての予定通り記者会見をして、大きく取組を宣伝することを目標にしてきました。里山の会として取り組みを開始していることを公表する事になります。国の天然記念物を放流するためには数多くの課題が控えていると思いますが力をあわせてがんばりたいと思います。